

原子力発電所特別委員会会議録

柏崎市議会

1 招集 昭和46年1月12日午前10時

1 場所 第1委員会室

1 出席委員

委員長	柴野寅平君
副委員長	飯塚 正君
渡辺政太郎君	与口登美夫君
関矢尚三君	服部喜三郎君
葉賀清治君	中村徳雄君
石黒武久君	矢代彦作君
小谷正太郎君	吉田勝治君
内藤哲夫君	渡辺 勉君
本間正平君	田村光仲君
黒崎秀夫君	阿部公一君
浅野重栄門君	関 市太郎君

以上20人

1 欠席委員

川又信応君	村田実義君
坂井友治君	山崎三司君

以上4人

1 欠員 1人

1 特別出席

議長	武田英三君
副議長	竹内吉三郎君

1 事務局職員

主事	小越哲雄君
----	-------

1 説明員

市長	小林治助君
市長公室長	長野 茂君

1 事件 今後の対策について（自民党県連エネルギー調査部会役員来柏懇談の際の要望事項のとりまとめ）

1 署名委員 渡辺 勉君 浅野重栄門君

1 開議 午前10時16分

1 会議概要

柴野委員長 最初に市長からこれまでの経過についての説明を聞くことにする。

小林市長 現況報告を申し上げる。

#### ◎用地買収

12月22日現在で契約のまだ済まない分が12件ある。内訳は、刈羽村が197件のうち契約済みが194件、未済が3件、実施率98.57。柏崎市においては47件の全部が契約済み、達成率100。地区外においては23件、うち契約済み22件、未済1件。そのほかに特殊なものが10件あって、うち2件が契約済みである。あと8件が残っている。特殊なものというのは、砂取り場、養鶏場、農場等の関係のことである。

したがって、合計すると、277件中、契約済みが265件、未済12件、契約達成率95.77。ということである。

#### ◎調査関係

調査の関係においては、海象調査が45年7月1日から実施中である。気象調査については近く敷地内に観測塔を建設して調査を始めることになる。地質調査については、敷地内の細部調査、ボーリング、あるいは弾性波調査等を開始している。

そのほか、資材運搬道路の用地買収を開始している。

#### ◎今後の対処の方針

それで、46年においては、これらの調査に基づく設計、配置作業等が進められると思うので、これにあわせて、1番目に地域開発、2番目に監視体制、3番目に住民の理解協力対策の推進、4番目に会社側との安全協定締結の調査準備に入りたい。このように考えております。

まず、そのうちで温排水利用、周辺道路計画、関連産業、こういうものに対しては、これはもう県からも大いに積極的な取り組みをやっていただきたいと思っているが、市としても、それぞれある程度、コンサルタントとか専門の先生方からも必要によって参画をしていただく。あるいは諮問に答えていただく、あるいは、いろいろ意見を聞く、そういうことによって独自の調査等もやってゆかなければならないので、それらに要する経費も計上しておくべきではなかろうかというふうに考えている。

監視体制については、これは前々から県も方針を明示しているように、県と一体となって第三者監視体制の組織を整備する。こういう考え方に変わりはない。この辺については県を中心として、それにわれわれも一体になった体制を作り上げてゆくことがよろしい。こういうように考えている。

それから、住民の理解・協力対策ということについては、いま「原子力ニ

ユース」を発行している。これを通じて住民の理解を得るように努めてまいりたい。また、これについては議員各位からも市民に対して機会をとらえて説明していただければ効果があると思っている。

それで、25日に自民党県連のエネルギー調査部会の正副部会長が来柏される予定になっているが、その際に私どもとしてお願いしたいと考えていることは、温排水の利用ということに関連して、農林部の関係、水産の関係、この辺について担当の部課をリードしてもらいたい、積極的な取り組みという点でリードしてもらいたい、ということが1つある。われわれのほうとしても、温排水の農業あるいは水産方面への利用という問題については具体的に検討していきたいと思っている。

それで、この温排水の利用については、私も私なりにアイデアを求めながら考えているが、比較的、アイデアとして可能性があると思っているのは温室農業に活用できないかということである。そのために桧山先生といっしょにハワイアンセンター等も見てきた。ハワイアンでは炭坑として地下750メートルの所からお湯を汲み上げている。毎秒80トンの70℃のお湯が出る。それを10インチパイプ10本で汲み上げて海に捨てている。ポンプで汲み上げて海に捨てるのに年間15億の経費がかかる。そのうちの1本だけがハワイアンセンターに入っている。60℃くらいで入っている。それを利用して、いろいろの施設をやっているわけである。ハワイアンにお湯を持ってくる経費が年間2億くらいかかり、常盤炭坑に払っているということである。

ハワイアンの土地は常盤炭坑の土地である。したがって、土地の買収費はいらなかった。労働力としては、炭坑従業員の子弟を使っている。踊り子の娘さんたちに誇りを持たせるために音楽学校を作って舞踊や音楽を習わせている。ムードが卑わいに流れないのは踊り子たちの教養にある。

そこで、私どもの所を考えると、取水し、冷却水として使い、排水される。その間に温度は5～7度上昇する。これをすぐに海に捨てないで、メインパイプで敷地周辺に引く。1基から出る量が毎秒50トンということであるから、相当の量である。このメインパイプから必要に応じてブランチする。用途によっては加熱してもよい。温室農業としては5～7度の高温というのは適温だろうと桧山教授は言っている。

観葉植物、洋葉、プール、育苗、その他いろいろのことが考えられるが、これらについて財源がどのように見つけられるかという点を煮つめてゆかな

ければならない。

農業の2次構造改善事業に取り上げられないか、公共事業の織り込み方、長期・低利の資金の導入、農業団体の経営意欲と経営能力、採算、そういった点を検討していかなければならない。公共施設は市が直営でやって、適当な機関なり団体なり、あるいは個人に委託経営をさせるということをやっても補助の対象になるかどうか。そこらも詰めていかなければならない。

何にしても根本は、パイプを回すということである。ポンプで温排水をパイプに回すということ。これには相当の費用がかかる。これを東電がやってくれるかどうか。それを東電からやってもらうには大義・名分をつけないといけない。

パイプを回すことができれば、そこから分流して鯖石川まで運河を作り、モーターボート等も浮かべることにも考えられる。

そのほか製塩というアイデアも出ている。これらはいずれも行政との関連の中で考えていかなければならない。

道路計画もこれから考えていかなければならない。単独市費ではやれない。公共事業の取り入れ、あるいは県、東電等の協力も得なければならぬ。

そのほか漁業の問題がある。浅海漁場の開発、養殖漁業、これらも温排水と組み合わせれば興味あるものが考えられるのではないかと考えている。専門の調査研究機関の誘引をはかって出なければならぬ。

とにかく、温排水利用については多岐にわたってアイデアを求め、煮つめていきたいと考えている。

柴野委員長 質問ないか。

本間委員 刈羽村で用地買収の未済が3件あるということだが、その中には「守る会」の会員が入っているか。

小林市長 3人のうち2人が会員だという話を聞いている。

飯塚委員 「原子力ニュース」を出すようになってから、守る会の空気が変わってきたように思うが、どうか。

小林市長 いろいろな要素がある、今後とも正しい理解の徹底には努力しなければならないと思っている。

与口委員 公開討論会の要求に応じないことが、向こうの側では意外に大きく取り上げられている。応じないのは解明できないからだという宣伝が行き届いている。それで、市民大衆、各階層の人を呼んで懇談会のようなものをやり、それを原子力ニュースあたりで市民に知らせるようなことも考えてはどうか。

小林市長 私がいままでに会合等に出た状況からすると、きめこまかく正しい知識を植え付けてゆくことが一番大事でないかと思っている。大体、集まる顔ぶれというのは、きまっている。

この前、刈羽でつくづくそう思ったけれども、どんな説明をしても、はじめから反対だというんだから、いくら話してもダメなんだ。しかし、そうでない大衆がたくさんいるわけである。そういう人たちに正しく理解してもらうということが大事だと思う。桧山先生や内田先生のような方でさえ、はじめは反対派の学者の中に教えられていたのである。一部の学者の一部の所論を抜き出して、それを誇大に宣伝している。それで、主流の学者の意見を原子力ニュースで流すなどのことも必要かと思っている。

与口委員 私が言っているのは、場合によっては学者、あるいは新聞社あたりを入れてもいいが、市内の各階層の人を集めて座談会のようなものを開き、その模様を流したらどうかということである。

小林市長 事務当局に検討させてみる。

柴野委員長 事態はここまで進んでいるのだから、もどに戻るように配慮してもらいたい。

与口委員 私は市民の95%くらいは原子力の問題についての的確な知識を持っていないと思う。そういう者に対する啓蒙の1つの手段として、いまのようなことを提案したのである。

葉賀委員 上の者は大体わかっている。中以下の人を対象にしなければならない。

小林市長 一般大衆に浸透させる手段として、そういう座談会をやって市民に流したらどうか、こういうお話、これについては私ども検討してみる。

柴野委員長 この問題については私どもも、もうちょっと研究してみる。

内藤委員 原子というもの、それが生活にどのように役立っているか、そういうことについても啓蒙の必要があると思う。

与口委員 つけかえ道路のことについて説明してほしい。

長野室長 東電は県の指示に基づいて、いま実地測量をやっている段階だと承知している。実施計画ができると、それを県に提出して、県で検討して、よしあしがきめられることになる。まだ、最後の、よしあしはきめられていないと承知している。県が具体的に指示をしている事項は、

① 法の規定を満たす範囲で、両地点をできるだけ短い距離で結ぶこと。

② 道路の巾は、6.5メートルの両側に歩道1.5メートルずつ、さらに路肩を50センチ、全部で10.5メートルにしろということ。

③勾配は4%以内にとどめること。

④カーブについてはアール300メートル。

⑤スノーシェードをつけること。

大体、そのような事項を指示している。国道並みの規格になる。現道に比較して1.4キロほど、う回することになる。

それから、資材運搬道路については、116号線から越後線と立体交差して、さらに寺泊線のう回道路とロータリーで交差して敷地内に入ることになる。

与口委員 現状の8号線とか116号線は改良しないのか。

長野室長 116号線は巾員がせまい。この路線全体について拡巾のための用地の先行取得をやってほしいということを国、県に要請している。特に分水町までがせまい。

飯塚委員 116号線からの資材運搬道路は、どの程度の規模のものになるのか。

長野室長 つけかえ道路と同じ規模で作るということである。

武田議長 116号線については大きい実績がないので、予算がつくのはむずかしいという事情があり、政治的に解決しなければならないということで、市長はじめ相当に動いているようだ。

与口委員 一般通勤者とか住民に迷惑がかからないようにしてもらわなければならない。

関委員 環境整備対策分科会では道路の問題について協議した結果、荒浜安田新道線から山すそを通過して市街地に通ずる道路がぜひ必要との意向が強かった。これによって荒浜地区の開発も促進されるであろうし、高浜地区からの通勤の不便も緩和される。

飯塚委員 そのことについて補足する。環境分科会においては、いま、関主査が報告したことが大多数の意見であったが、1人だけ、そういう線を打ち出されては支障があるという意見があった。含んでおいてもらいたい。

与口委員 そういう道路を作ることはいいことだ。

柴野委員長 それでは、今日の話し合いをもとにしてエネルギー調査部会の正副部長との懇談の際の要望事項をまとめることにする。

これで閉会する。

1 閉会 午後0時7分

委員会条例第23条の規定によりここに署名する。

原子力発電所特別委員会

委員長 柴野寅平  
署名委員 浅野重栄門  
署名委員 渡辺 勉

## 問題点と経過

### 県道つけかえ

東電は、県道柏崎・寺泊線を周辺監視区域の外へ回させるため県に意向伺いを提出した。これに対して県は、う回は避けられないとして、

- ① つけかえ道路は国道並みの高規格のもとにすること、
- ② う回の不便緩和のため荒浜・安田・新道線への連絡道路を新設すること、

等の意向を回答した。これに基づき東電は現在、細部打合せをしながら設計測量を進めている。なお、今年度中に正式認可申請をする予定とのこと。

### 道路整備の全体計画

市当局は、関係機関と連絡をとりながら、道路整備も含めた地域開発の方途について検討中。

環境整備分科会においては、荒浜・安田・新道線から山すそを通過して市街地へ通じる道路がぜひ必要との意向が強い。

### 用地買収 進行中

漁業補償 海象調査の迷惑料として350万円を支払い済み。

### 事前調査と監視体制

県は、原子力技術委員会の指導により、昨年6月から環境放射能調査、漁業影響調査等を実施している。運転時の監視体制については、なお検討を重ねるとのこと。

### 住民不安の解消

12月8日委員長ほか出県、副知事に陳情。「県も8月に積極的に取り組む」との回答を得た。

### 温排水の利用

アイデアを煮つめている段階。

県においても「温排水利用は巨額の費用を要するが、アイデアがよければ電力会社の協力を得られるであろう」として、企業振興課を中心に、これに取り組んでいる。

試験・研究施設の誘致 今後の課題

関連産業の振興 今後の課題

県議会の取り組み

1 2月8日委員長ほか出県、自民、民社、公明の各党控室を回り陳情。

自民党の意向は、①県議会内に原子力の特別委員会を作ることは考えていない。②いまは知事のほうで必要なことはやってゆける体制になっていると考えてほしい。③要望は具体的に出してほしい。④議会活動とは別に、自民党は県連の中に「エネルギー調査特別部会」を設け、原子力問題に対処している。

おぼえ (1/14 正副委員長、正副主査打合せ)

委員会で申し合わせた

—要望事項—

#### 1 県道つけかえによる不利益カバー

柏崎寺泊線のつけかえによって地域民が受ける時間的、経済的な不利益に対して、カバーの配慮をいただきたい。

なお、地域民から知事及び県議会あてに提出されている「つけかえ反対陳情」の趣旨をよく汲み取っていただきたい。

#### 2 周辺関連道路の整備

寺泊線のほかにも、つけかえや廃止を要する道路がある。

住民の受ける不利益を緩和し、さらに地域の発展に要するため、周辺関連道路の整備に尽力いただきたい。

#### 3 漁業に対する補償と指導

漁民の立場を尊重した補償措置とともに、将来の漁業形態、漁業構造に対する指導・援助に尽力いただきたい。

#### 4 治安・交通対策

建設工事を進めるにあたって、住民の福祉がそこなわれることのないよう、治安・交通対

策に留意いただきたい。

## 5 温排水利用

温排水の有効利用に指導、援助をいただきたい。

## 6 試験・研究機関の設置

温排水、水産、原子力など関連の試験・研究機関の設置について配慮いただきたい。

なお、原子力高等専門学校の設置などは、多方面にわたり有益と考える。

## 7 地域発展

原子力発電所建設に関連して、地域開発、産業振興の方策について指導、援助をいただきたい。